

第 8 章 本事業の主な成果に関する総括及び次年度の実施計画

8.1 本事業の中心となる 4 つの人材像とそれを支える教学体制

本報告書では、理系産業人育成のため、4 つの育成すべき人材像を立案した。さらに、その 4 つの人材像を実現するために必要となる、教学体制の構築との関係について、図 8-1（図 1-4 の再掲）に整理した。

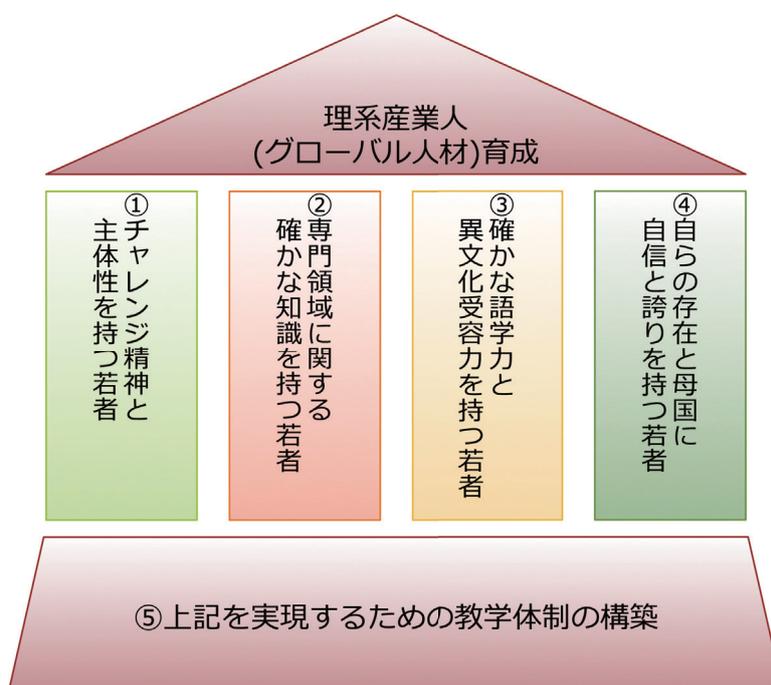


図 8-1. 4 つの人材像とそれを実現する為の教学体制の構築（図 1 - 4 再掲）

次節では、図 8-1 に示した○番号を参照しながら、各章で述べた、各 PT にて得られた成果を本事業全体として概観する。

8.2 各プロジェクトチーム (PT) で得られた成果と本事業全体との関連

表 8-1 では、左列に各プロジェクトチーム (PT) の名称(ただし、「グローバル・サイエンス・コース/イングリッシュ・キャリア・コース整備 PT」を「GSC」、「ラーニングコモンズ/グローバルビレッジ PT」を「LC/GV」、「教学グローバル化 PT」を「教学」、「事務グローバル化 PT」を「事務」、「入学グローバル化 PT」を「入学」、「調査・研究 PT」を「調査」と略記する)、左から 2 番目の列に各章で述べられた成果、右列から 2 番目の列に図 8-1 のうち、関連する要素の番号を示

し、最も右の列に本報告書内の節番号を示し、本事業で得られた成果について、各成果の関連性を見る。

表 8-1. 各成果と本事業全体との関連性

PT 名	成果	図8-1との関連	節番号
GSC	理系 3 学部と外国語学部の組織改編を含む教育課程の改革	①～⑤	2-3-1
GSC	理系 3 学部と外国語学部の連携	①～⑤	2-3-2
GSC	理系グローバル産業人 4 要素を育成する具体的教育プログラム	①～⑤	2-3-3
LC/GV	アクティブラーニング型公開授業の充実	①⑤	3-2-1
LC/GV	学習支援サービスの窓口の設置	①③⑤	3-2-2
LC/GV	グローバルビレッジ設置準備	③	3-2-3
LC/GV	ラーニングコモンズセミナーの実施	①⑤	3-2-4
LC/GV	学習環境調査の実施及び調査結果に基づくラーニングコモンズ のコンセプト構築	①⑤	3-2-5
LC/GV	雄飛館ラーニングコモンズの設置	①	3-2-6
LC/GV	図書館ホール・アクティブラーニング環境(ラーニングコモンズ・パ イロット版)の設置	①	3-2-7
LC/GV	ラーニングコモンズ/グローバルビレッジ・プロジェクトチーム報告 書の執筆	⑤	3-2-8
教学	シラバス・成績評価改訂の検討	⑤	4-2-1
教学	ナンバリング調査・導入	⑤	4-2-2
教学	TOEIC義務化・公表の検討	③⑤	4-2-3
教学	ラーニングポートフォリオ/ティーチングポートフォリオ/英語自習シ ステム開発構築の検討	③⑤	4-2-4
教学	自己発見数値、「大学生基礎力調査」各種指標数値に関するデー タの取得	①⑤	4-2-5
教学	英語カリキュラムの導入とGJP(Global Japan Program)強化	③	4-2-6
事務	事務グローバル化プロジェクト・ワーキンググループ設置	⑤	5-2-1
事務	職員の語学力向上における実態把握のためのアンケート調査の 実施	⑤	5-2-2
事務	グローバル人材育成プログラム・コンセプト(イメージ)の設定	⑤	5-2-3
事務	平成 25 年度 事務グローバル化ワークショップ開催	⑤	5-2-4
事務	他大学における事務職員のグローバル人材育成プログラム等取り 組み事例の調査	⑤	5-2-5
事務	英文化訳出用語の抽出、翻訳作業	⑤	5-2-6
事務	教育情報の公開	⑤	5-2-7
事務	第三の職域に関する雇用実績	⑤	5-2-8
入学	外国語学部の改組に連動した入試制度改革の検討	①～④	6-2-1
入学	京都産業大学附属高校での英語教員研修の実施の検討	⑤	6-2-2
入学	入学時から卒業時までの学生情報の一元化の検討	⑤	6-2-3
入学	カリキュラムと一貫性のある入学前教育の検討	⑤	6-2-4
調査	帰国留学生の学生 FD スタッフ等への登用	①③	7-2-1
調査	DP(ディプロマ・ポリシー)に基づく授業評価アンケートの改訂	⑤	7-2-2
調査	本事業のデータに基づく自己点検体制の強化	⑤	7-2-3
調査	本事業を展開する大学に相応しい教員評価制度への改善活動	⑤	7-2-4
調査	FD/SD セミナーの実施	⑤	7-2-5
調査	外部評価委員会の実施に向けた取り組み	⑤	7-2-6
調査	教育情報の公開	⑤	7-2-7

8.3 次年度の実施計画

本事業の次年度の実施計画についても、引き続き、グローバル化推進プロジェクトチーム（親

PT)が、申請書に書かれた構想が迅速に実現されるように、プロジェクトチームごとの作業内容の承認及び作業進捗の把握等の総括を行って推進する。

各PTの次年度の実施計画について、次項からPTごとに述べる。

8.3.1 グローバル・サイエンス・コース/イングリッシュ・キャリア・コース整備PT

(1) ポートフォリオの試行・試験的運用

平成25年度にシステム導入したポートフォリオを用いて、入学時から卒業時までの学習成果物を保管できる環境を試行・整備する。グローバル・サイエンス・コース・スタート時にはテスト運用を開始し、学生の学修成果の可視化を図る。

(2) 大学経常費による「渡航費奨学金」制度(2年目)の活用による留学の促進

大学の経常費用により、理系3学部と外国語学部の学生を優先的に対象とした1人15万円を上限とした渡航費奨学金を運用し、さらに各種奨学金制度の活用によって留学費用の負担を軽減する。留学を促進するとともに、学部カリキュラムとの連動を図る。

(3) 自学自習英語(e-learning)システムの本格利用開始

理系産業人の育成に関わる4学部の英語力到達目標達成にむけて、自発的に学習できる自学自習英語システムを平成25年度に導入し、平成26年度から段階的に本格的な稼働を開始する。システムの利用環境の整備を、継続的に行う。

(4) 台湾をはじめとする東アジア・東南アジア等海外拠点の調査および協定校との調整

同窓会組織等を活用し、台湾の拠点整備を進め、さらに、東アジア・東南アジア等海外拠点の調査を行い、協定校との連携の強化を図り、留学生受け入れ条件の調整、海外インターンシップの拡充を図る。

(5) 理系企業を中心とする国内外ネットワークの構築と理系インターンシップの開拓・拡充・実施

理系企業を中心とした国内外ネットワークを構築する為、卒業生の就職先や確かな技術を持つグローバル企業について調査を行う。京都の経済界・同窓会組織を活用した理系インターンシップ科目を開講し、産学協働による理系専門知識の教育を行う。学生のキャリア形成を支援し、理系3学部のインターンシップ履修率の向上にむけた取り組みを行う。

(6) 理系特別英語プログラムグローバル・ジャパン・プログラム、全学共通教育における英語新規科目の開講

理系特別英語プログラム、グローバル・ジャパン・プログラム等、新規英語科目を開講する。

(7) 理系学部専門英語科目の開講・拡充

既存の理系学部専門英語科目(8科目)に加えて、理学部において専門英語科目(2科目)を新規開講する。

(8) グローバル・サイエンス・コースのための短期(東アジア・東南アジア)・長期留学プログラムの調査・開発

グローバル・サイエンス・コースを対象とした短期・長期留学プログラムを追加開発する。短期留学については、既存のプログラムに加えて、新規に東アジア・東南アジアへのプログラムについて検討する。長期留学については、学部専門科目履修と留学の両立のための環境を整備し、大学院進学予定者向けの教育など学部のニーズに合致した教育プログラムの開発・調査

を行う。

- (9) 外国語学部と理系3学部生対象の夏期集中科目「特別英語（英語サマーキャンプ）」の
新規開講

理系3学部と外国語学部の学生対象の夏期集中科目「特別英語（英語サマーキャンプ）」を
新規開講する。2回の試行実施の経験を踏まえて、外国語学部と理系3学部が連携し英語力向
上と学生の意識向上を図るための施策を実施する。

- (10) 新規科目「海外サイエンスキャンプ」の開講・実施

グローバル・サイエンス・コースを対象として、キャリアパスを考えることについての動機
付けのため、産学協働教育を核にした海外留学プログラム、「海外サイエンスキャンプ」科目
を新規開講し、理系産業人の育成のための教育を米国西海岸で行う。

- (11) グローバル・サイエンス・コースのホームページ等における広報の実施

グローバル・サイエンス・コースのホームページ等の広報を展開し、本学の取り組みを外部
に発信する。

- (12) グローバル・サイエンス・コース春季セミナーの実施

グローバル・サイエンス・コースを対象として、国内外の講師を招聘し英語学習やグローバ
ルな理系キャリアに関するセミナーを開催する。春休み期間等を利用して、正課教育との両立
を図るとともに、「海外サイエンスキャンプ」等の留学プログラムに参加できない学生にも、
グローバルな体験を供給する機会とする。

- (13) グローバル・サイエンス・コース定例勉強会の実施

グローバル・サイエンス・コースを対象として、月1回程度を目標に定例勉強会を実施し、コー
ス登録者のコミュニティ形成と主体的な学びへの意識づけを図る。

8.3.2 ラーニングコモンズ / グローバルビレッジ PT

- (1) 雄飛館ラーニングコモンズにおけるアクティブラーニング型授業の実施

雄飛館ラーニングコモンズにおけるアクティブラーニング型授業を、平成25年度に引き続
き、実施する。

- (2) (学習支援) 英語自学自習システムのサポート体制の導入と試行開始

英語自学自習システムの導入に伴い、必要となるICTサポートの窓口について、電話対応
も含む支援員を1名配置し、対応を開始する。

- (3) (学習支援) 雄飛館ラーニングコモンズにおける日本語ライティング・英語ライティング
支援の担当職員の雇用開始

雄飛館ラーニングコモンズにおいて、平成25年10月の仮オープンから試行している日本語
/英語ライティングに関する学習支援サービスについて、学生のニーズが高いことから、より
専門的知見から開館時間中常時学習支援が担える学習支援スタッフ(2名)の雇用を開始する。

- (4) 京都産業大学版グローバル・ビレッジ新設計画の策定(レイアウト設計及び什器選定等
の具体的議論の開始)

新2号館の建設が、平成27年度に延期されたことに伴い、京都産業大学版グローバル・ビレ
ッジに関するレイアウト設計及び什器選定等の具体的議論の実施を、平成27年10月の仮オープ
ンに向けて行う。

- (5) 雄飛館ラーニングコモンズ、図書館ホール(ラーニングコモンズ・パイロット版)にお

けるアクティブラーニングセミナー（学内向け）の実施

平成25年度に実施したラーニングコモンズセミナーと同様に、雄飛館ラーニングコモンズや図書館ホール（ラーニングコモンズ・パイロット版）においてアクティブラーニングセミナー（学内向け）を実施する。

8.3.3 教学グローバル化PT

(1) 科目ナンバリングの導入と再検証

科目ナンバリングを全学的に導入し、体系的なカリキュラムであることを再検証し改善する。

(2) 履修登録のあり方の改善

これまでの履修登録のあり方を改善し、今後は、各学部教員が主体となる履修計画相談体制を導入する。

(3) 英語科目の相互乗り入れの実施

英語科目の相互乗り入れについて学生に周知し、本学の語学力養成プログラムの最終目標である留学を促進する。

(4) 内容の関連性や難易度が分かるような科目間のつながりの可視化

Web シラバス・システムに、ナンバリングでの検索機能を追加する。あわせて、ナンバリングの一覧表を Web で公開する。

(5) シラバスの改訂

事前・事後学習の内容や教員への質問方法も含めた「学習支援書」としてのシラバスを導入する。

(6) ポートフォリオを活用した履修計画相談の実施

ポートフォリオで蓄積した学生の学習成果の達成度や進捗を、担当教員による履修計画相談に活用する。

(7) 英語による新規科目の導入とその効果の検証

英語による新規科目の導入と、その効果を検証する。

(8) KSU 科目群による建学の精神と日本文化の理解の促進

KSU 科目群における建学の精神と日本文化の科目の履修を促し、建学の精神と日本文化の理解の促進を図る。

(9) 履修計画相談に有用なループリックの調査

履修計画相談に有用なループリックについて検討・調査する。

(10) 入学生へのプレイスメントテスト（TOEIC Bridge）の実施

入学時にプレイスメントテスト（TOEIC Bridge）を実施し、全入学生に関するデータの蓄積、およびデータに基づいた教育改善を行う。

(11) 1年次生と2年次生への TOEIC 試験（TOEIC IP）の実施

第2セメスター終了時と第4セメスター終了時に TOEIC IP のテストを実施し、入学時のプレイスメントテスト（TOEIC Bridge）との比較により伸び率を確認する。また、授業内容の改善資料とする。

(12) 履修要項・シラバス英文化の促進

履修要項・シラバス等の教学文書の英文化推進のポリシーが確定後、順次、英文化を進める。また、英語による授業科目の Web シラバス・システム検索機能については、先行して導入する。

8.3.4 事務グローバル化 PT

(1) 学内英文書の精査、学内文書・シラバス英文化の推進

学内文書やシラバスを英文化するチームを編成し、学内文書の国際的通用性を向上させる。

(2) 教育情報の段階的公開の検討

教育情報の段階的公開を検討する会合を開催し、大学ポートレートの状況を踏まえながら、公表基準への対応を行う。

(3) 海外研修参加報告会の開催

海外研修参加報告会を開催し、グローバル時代にふさわしい大学職員の企画・経営能力を高める。

(4) グローバル水準に見合う大学職員の職能の開発に向けた調査

グローバル水準に見合う大学職員の職能を開発し、職員の英語力向上やグローバル化に耐える人材のモデルを調査・模索し、策定する。

(5) 専門スタッフ、第三の職域に関する人事評価・制度改善に関する調査、検討

産学協働を担う専門職や、教学データの分析（IR）を行う専門職など、教員と職員の境界に属する「第三の職域」の人事評価・制度改善に関する調査を実施する。

8.3.5 入学グローバル化 PT

(1) アドミッション・ポリシーに則した入試、入学前教育の改訂に向けた検討

3つのポリシーに基づいた入学時から卒業時までの一貫した修学支援システムを構築することを目的とし、本プロジェクトでは、本学のアドミッション・ポリシーと既存の入試制度等との一貫性について自己点検する。まずは、AO入試で各学部が定める「求める人材像」とアドミッション・ポリシーの一貫性に焦点をあて、その必要性・重要性を各学部教員間で共有・再認識するために意見交換を行う。また、アドミッション・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが接続する入学前教育への見直しも視野に入れた検討を行う。

(2) TOEIC スコアを活用した大学・高等学校間での英語教育に関する意見・情報交換

アドミッション・ポリシーに則した入試制度・体制等を再構築するためには、大学と高等学校における英語教育等の授業実態・学生実態を教員間で共有する必要がある。本プロジェクトでは、共有するための一つの材料として、平成25年度に実施したTOEICスコアを分析・検証し、主に附属高校教員を対象に意見交換を行う。

8.3.6 調査・研究 PT

(1) 公開セミナー「グローバル人材育成高等教育セミナー（FD編/SD編）」の実施

学士課程教育の質保証をテーマにした公開セミナーを実施し、教職員の問題意識を喚起し、教育の質向上へつなげていく。年度末に報告書として全国の高等教育センター等へ配布する。質保証に関する研究蓄積を広く他大学へ公開することで、私立大学における高等教育センターのモデル形成を行う。

「グローバル化時代に求められる大学職員の職能開発」に焦点を置いた公開セミナーを実施し、大学職員の職能開発に関する研究蓄積を、広く他大学へ公開することで、私立大学における高等教育センターのモデル形成を行う。

(2) 理系学生のためのPBL型授業の拡充の検討

理系学生のためのPBL型授業の拡充を検討し、問題解決型の主体的な学びを促す為のFD活動を検討、実施する。

(3) 外国語学部と理系3学部のTOEICスコアの分析の実施（教学IRにおける調査・分析体制の強化）

外国語学部と理系3学部のTOEICスコアを分析し、本事業での数値目標の達成に向けた取り組みを行う。

(4) 各学部実施の授業アンケートの分析（教学IRにおける教学レファレンス機能の強化）

各学部実施の授業アンケートを分析し、それを教員も授業改善の指針として活用できる基礎資料とする。また、エンロールマネジメントのモデルとして、入学時から卒業後まで学生調査を継続的に実施する環境を段階的に整備していく。

(5) 双方向授業等を公開する教員に傾斜配点する制度の導入検討

学生の問題解決型学習を促進する観点から、双方向授業を公開する教員に傾斜配点する制度を検討する。

(6) 『高等教育フォーラム』（第5号）の発行

全国400の大学・高等教育センター・研究所等へ配布している『高等教育フォーラム』で成果報告を行い、教育支援研究開発センターのホームページでも情報発信を行う。また、質保証に関するトピック別に、公開フォーラム内容をまとめたブックレットを作成し、質保証に関する研究蓄積を広く他大学へ公開することで、私立大学における高等教育センターのモデル形成を行う。

(7) 外部評価委員会の実施（第2回）

第2回外部評価委員会を実施し、大学のグローバル化を、①高等教育政策、②英語・国際交流、③教育工学、④事務体制、⑤情報公開の5つの視点から評価を受ける。

8.4 総括

本事業では、プロジェクトチーム制を採用し、本事業の主たる承認機関であるグローバル化推進プロジェクトチームを起ち上げると共に、構想調書に述べた多数のタスクを、関連するものごとにカテゴライズし、それぞれの施策を担当する下部PTを6つ起ち上げ、事業を推進した。

各PTそれぞれが自律的にメンバー構成やワーキンググループ等の下部会議を立ち上げられる権限を持つことで、平成24年度後期から、平成25年度にかけて、本章8.1に示したような、成果を得ることができた。

本報告書はグローバル人材育成推進事業の一年半の事業の報告と総括を行った。事業内容の現状把握、並びに本事業の構想調書に書かれている概念、各タスクの精査と次年度の事業計画の概要を報告した。

今後は、前節に述べた事業計画を実行に移し、本学学生の学習活動を充実させ、学習効果を引き続き高めることで、4つの人材像の実現、「グローバル社会で活躍する理系産業人」の育成を目指す。

